

アンケート

今回は結婚生活と職業を両立させておはげみの方々の御意見を伺いました。

一、(1) 一番苦労な点は。

(2) 楽しい点は。

二、(1) 両立の為に最も必要な事は。

(2) 特に御子様のおありの方は、その点についてもお述べ下さい。

三、後輩に対して、この問題に関する御意見を一つ。

秋田 美子 (二十五回生)

東京都在住

東京都立白金保育園長、東京都技師

一、(1) 時間的余裕のないこと、従つて自己をいじめる結果になつてしまうこと。

(2) 人間的に生活していけること。

二、(1) 本人の体力、忍耐力、家族の協力、合理的な生活の工夫などの綜合されたもの。

(2) 子どものためには安心して託される保育施設の設置。

三、両立原則の結婚により人間的成長と社会的な寄与を望みたい。

中島 さつき (三十一回生)

武蔵野市在住

東京都衛生局普及課

一、(1) 時間的余裕がないこと (社会生活と家庭生活の切替えを上手にしようとする努力をしています)。

(2) 家庭の主婦のみであつた時と比べ、社会福祉の分野で有意義な日を過すことが出来る点と経済的独立が出来る点。

二、(1) 何よりも私自身の健康と家族が精神的にも肉体的にも健康であること。私の仕事に理解を持ち協力してもらうこと。

(2) 現在十九歳、十六歳の男の子と、十三歳の女の子の三人ですが、夫も子供達も家事を協力で援助してくれま

三、私は学校卒業後二年この方面で働き、家庭生活をおくり、六年前再び社会に出ました。現在託児施設も少なく、幼児の人格形成期に最も母を必要とする時、子供を如何に育てるかということ

が問題点だと思います。

上田 光枝 (四十回生)

京都市在住

一、(1) 労働省婦人少年局婦人問題相談員、帰宅時間が遅くなる時の食事、こし

らえ。

(2) 自然勉強する様になり考える時間があること。

二、(1) 家庭の仕事、例えば食事、ごしえやそうじ、その他の雑事がたのしくなる。(終日家事のみに追われてないので)。

二、(1) 両立のために最も必要な事は家庭各人の協力と理解。(特に夫の) 生活の簡素化、合理化

(2) 子供の教育に欠けて来やすいので、子供と共に過す時間を多く持つこと。

三、仕事を大切に考えるので、家庭とのバランスが取りにくくなる。結婚生活に入る前に夫の考え方、意見を交換する。

芝 実生子 (四十六回生)

藤沢市在住

アンケート

舞台美術

- 一、(1) 夫は作曲家、私は舞台美術、お互に仕事の性質が似ていて自分のものをよりみがこうとすれば、勉強しようと思えば必然的に相手の犠牲を欲します。助け合うと云う事は、勉強もある程度で止めて犠牲になり合う事を意味します。つまりは、経済的な意味で、充分に伸びられない苦しさです。

- (2) 仕事を受けた日、混沌としたイメージの焦点を、だんだんにしぼって行く時は丁度難しい試験の答案を、とき出したそわそわしたあの緊張に似ています。名状しがたい楽しさです。又ぎりぎりのところでお互に自分らしく生きてる事に誇りと喜びを感じます。

- 二、(1) はつくりした目標。

- (2) 子供は、まだ当分つくりません。三、自分の生活に対しても未だに答が出てないので云う資格はありませんが、冒険ではあつても如何なる回避の口実をつけないで自分らしく出来るところまで生きて下さい。せめて子供に：と云う考えを止めて、自分が、それになつてなりとげてみて下さい。その時、子供も又そう生きるでしょう、と私は思っています。

中村 光子 (四十六回生)

東京都在住
高島屋東京支店企画部

- 一、(1) 仕事で残業が続いて、夫が先に家に帰っている時には一番困ります。(2) ボーナスをもらった時などは誰にも気兼ねなく、楽しい一時をすごす事が出来る。

- 二、(1) 夫の理解と家事を合理化する事(私の家では今、御手伝いの小母さんを置いて居ります。)
仕事に対して自信と誇りを持つ事。

林 耀子 (新制二回生)

東京都在住
三輪田学園(中・高) 社会科教諭

- 一、(1) 考え方次第なので……？
(2) 仕事に共通性があるので共に研究し、論じ、お互に助け合える事。
二、(1) 過労にならぬ為、配偶者の精神的及び具体的日常生活への協力が必要なのは勿論ですが、外でも百点、家でも百点の理想生活にこだわりすぎない事。各人の性格にも依るでしょうが、神経を太く、気長にのんびり構える修養？ をして身心共に健康で

- 三、ある事が第一だと思っています。

経済的裏付なくしては女性の地位向上は困難な現状なので、出来るだけ仕事は続けてほしいけど、目的はそれのみでなく、職場の経験が家庭に、家庭の経験が職場に役立ち、社会を家庭を豊かに暮す為の職業であるように研究的に働いて欲しいと思います。

内藤 ひろ子 (新制五回生)

東京都在住
区立中学校特殊学級担任

- 一、(1) 今のところ苦勞という程の苦勞はありません。
(2) 職場の生活も家庭生活もそれぞれに楽しい。

- 二、仕事忙しい時、二人の気持の上に行き違いがあつても二人きりの生活だと解決が早い。問題が内攻しないから。書いてみたらこんな事しか書けなくて、なんてぼんやりなんだろうと思いましたが、けれど今の生活に満足して居るのかも知れません。知能の低い子供達との悩みは限りありませんが、明るい希望の道に少しでも手をとつてやるのが、この教育の仕事だと思つてますから、生き甲斐を感じています。家庭の方もどうやら円満にやつてます。